

## 第1学年図画工作科学学習指導案

日時	平成16年9月9日(木)5校時
児童	1年1組 男16名 女17名 計33名
場所	1年1組教室及び生活科室
指導者	野澤 久美

1. 題材名  
うみをつくるよ わくわくすいぞくかん

2. 題材について

本題材は、材料の色や形を生かし、発想をふくらませながらつくりたいものをつくるという活動である。教師からの投げかけがきっかけであるが、どんなものをつかっていきたいかを子どもたちとともに話し合い、発想を楽しみながら進めている題材である。

学習指導要領における低学年の目標は三つの項目で示されているが、特に小学校の入門期における子どもたちには、(1)における「表したいこと、つくりたいものを自分の表現方法でつくりだす喜び」すなわち、すべての造形活動の内容に対応する関心、意欲、態度を十分に引き出させたいと考えている。その上で(2)における表現の内容に対応した資質や能力を育成できるように題材の構成をした。また、鑑賞の内容にかかわる(3)の目標についても表現の資質、能力に相互に働き合って高め合えるように場の設定を考えた。教科書題材をもとにしながら、テーマを連続的にとらえ、1学期の材料体験から教師と子どもたちで発展させてきた題材である。

児童は、入学当初から図工の学習をとて楽しみにしてきた。五十音をまだ完全に学習していない段階では、絵を描くことが大切な伝達手段でもあり、ノートに挿絵をつけたり、読み取った内容を絵に表したりと、心の中に浮かぶイメージを形に表現する活動を国語の学習でもたくさん取り入れてきている。また、粘土の学習では、想像したことを思いのままに表現し、お互いの作品にも興味をもって見せ合う場面が見られた。

つくりたいものをつくるの領域においては、「たのしいかざり」や「ぼく、わたしのあそびば」で簡単な紙工作の基本的な切り方、貼り合わせ方の技能を学習している。さらに「材料となかよし」の造形的な遊びでは、図工室にある材料銀行から材料の箱をマルチホールに運び入れ、全ての材料を並べたり積んだりしながら、大きな街づくりをした。そこから発展した「うみをつくるよ うみに船をうかべよう」の題材では、大きな青いビニールシートの上に空き容器類でつくった船をみんなで並べて配置をし、どの子どももダイナミックな創作活動を喜ぶ姿が見られている。この題材の続編として、本題材「うみをつくるよ わくわくすいぞくかん」に自然な流れでつなげたいと考えた。

本題材で主に扱う材料は、ビニール袋、新聞紙などの紙類あるいは梱包材、ひもやテープ類である。これらの材料を使って立体的に海の生き物を表現する。本題材で使われる材料は、資源を再利用するという観点を持ち、家庭から毎日捨てられていく新聞紙や広告紙を、資源として再利用される前にもう1度造形材料として役立たせようというものである。シュレッダーで廃棄される学校の用紙類も大切な材料となる。接着には両面テープも活用し、つくりやすいようにした。装飾は簡単なものでよいと考えるが、海の生き物の特徴をとらえたものでありたい。材料の形や色から発想して立体的に形をつくる経験、接着を考える経験、飾りをつくる経験、そして、つくったものをどのように配置するかを考える経験を通し、初歩的な造形活動の楽しさを存分に味わわせたい。また、校内で子どもの造形表現にふさわしい場所を選択して与えたい。子どもとともに、環境に働きかけながら造形表現を楽しんでいくという姿勢を持ち続けたいと考えている。

本題材との出会わせ方は、前題材からのつながりを考え、「海からの手紙」で行う。みんなで海をつくった楽しい経験を思い起こさせ、今度は海の中にもぐってみようという投げかけをする。さらに、水族館のビデオを見せたり、海水浴の経験を話し合わせたりすることで関心を高めたい。また、最初に同じ材料を与えて材料体験をさせ、参考作品(教科書)と比べ合わせて工夫する観点を明確にしたい。実際の指導の場面では、サポートの先生と協力し合い、活動場所が2ヶ所に分かれた場合でも一人一人の子どもにいていねいに個別指導をしながら認め、励ましていくことで、教師と子どもたちとが協力しながら1つのものをつくりあげる気持ちを大切にしたいと考える。

### 3. 題材の目標

- (1) 集めた材料で海の中を表現することに興味をもち、楽しみながら進んで造形活動をする。(関心・意欲・態度)
- (2) 材料の色や特性を生かして作品をつくったり、飾り方を考えたりしながら、発想を広げて海の中を表現することができる。(発想・構想の能力)
- (3) 自分なりの表現方法に基づき、立体的になるつくり方を工夫しながら、つくりたいものの形づくりをする。(創造的な技能)
- (4) 友達の作品にも興味や関心をもち、喜んで見合う。(鑑賞の能力)

### 4. 準備する物

教師：ビデオ、ビニール袋、新聞紙、不要紙をシュレッダーにかけたもの、梱包材、画用紙、色紙、両面テープ、カラーテープ、マジック、飾り付け用の用具等

児童：のり、はさみ、自分で用意した材料及び材料銀行から選んだ材料

### 5. 指導計画と評価規準(4時間)

過程	評価場面	評価規準	支援と評価
意欲づけ 15分	海からの手紙を聞き、ビデオを見て、海の中の生き物について想像する。 ・魚の名前、特徴 ・動作化、まね	関)学習の主題に関心を持ち、進んで話し合いに参加しているか。	<観察> A:海の生き物についていきいきと発言している。 C:友達の発言をよく聞かせる。
発想・構想 30分	袋の中に紙を入れてふくらませ、海の生き物をつくる見通しをもつ。	発)材料を生かし、立体の感じが出るように形づくりをしているか。	<観察> A:いろいろな形づくりを試しながら、海の生き物らしさを表す工夫をしている。 C:つくり方についてわかりやすいように個別指導をする。
表現 120分	自分が表したい生き物らしさが出るように工夫して表現する。 仕上げをし、作品を飾る。 <本時> ・目をつけたり、うろこをつけたりする。 ・できあがったものを飾る場所を探し、海の中を表現する。	関)最後まで楽しんで活動を続けているか。 技)自分なりの表現方法を工夫して取り組んでいるか。 発)発想を広げながら活動に取り組んでいるか。	<観察> 関) A:飽きずに最後まで活動を工夫し、発展させている。 C:進んでいる子どもと一緒に活動させるようにする。 技) A:形づくりを自分で工夫し、ていねいに丈夫につくろうとしている。 C:基本的な用具の使い方について指導する。 発) A:場所やテーマから発想を広げて、生き物その他をつくっている。 C:他の子どもの活動も見させながら活動を見守る。
鑑賞 15分	できあがった海の様子を楽しんで味わう。	鑑)友達の作品のよさを見つけようとしているか。	<観察・カード> 鑑) A:友達のよいところについて進んで発言しようとしている。 C:友達の発言に耳を傾けさせる。

6. 本時の指導

(1) 目標

- ・ 海の生き物の仕上げをし、飾る場所を考えて水族館をつくり、楽しい海の世界をみんなで楽しむ。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	教師の働きかけ（支援と評価）	時間
意欲 づけ	1. 前の時間までのことを振り返り、本時の課題を確認する。 ・ 早くつくりたい。 ・ 楽しみだな。 ・ すてきな水族館にしよう。	「いろいろな形の楽しい生き物ができてきましたね。早く飾ってみたいね。生き物をつくったなら、周りの様子をつけたして水族館をつくりましょう。」 「どんな水族館にしたいですか。」 (評価1) 本時の活動内容についての意欲をもったか。 <関>	5
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>うみをつくるよ わくわくすいぞくかんをつくらう</p> </div>			
発想 ・ 構想 ・ 表現	2. 完成の見通しをもち、仕上げの続きをする。 ・ 目をつけたり、うろこをつけたりする。 ・ 細かいところは紙をつけたしたり、マーカーでかいたりする。 ・ できたなら、つるす準備をする。	「材料と材料をしっかりとつけて、丈夫に作りましょう。きれいにつくるためにはどうしたらよいのかを考えながらいねいにつくりましょう。」 ・ 個々に対応し、個別指導を行う。 ・ 自分でどんどん進められる子はよい点を認めながら見守る。 ・ つまずいている子には適切な技術指導をする。 (評価2) 自分なりの表現方法で工夫して取り組んでいるか。 <技>	30
	3. できあがったものを生活科室の中に飾る。 ・ 友だちの作品と並べて楽しむ。 ・ 高さを考えて飾る。(海の上の方の生き物や海底に住む生き物など)	「海の生き物をつくり終わったなら、飾りに行きましょう。どこに飾ったらよいか、自分で考えたり友達と相談してみたりしましょう。」 担任とサポートで分担して指導する。 (評価3) 自分の作品を見直し、場所を楽しく飾る工夫をしているか。 <発>	
	4. 生活科室の中に配置し、つけたしたいものを思いついて表現する。 ・ 海らしい雰囲気になるようなものをつくったりかいたりする。	「海の世界につけたいものを思いついたなら、作りましょう。」 ・ 黒板や壁面のスペース、机の配置など、場の設定を工夫し、材料を準備しておく。 ・ 子どもの活動を賞賛しながら記録を撮る。 (評価4) 場所から表現したいものを発想し、最後まで活動を続けようとする意欲が見られるか。 <関・発>	10
鑑賞	5. できあがった海の様子を楽しんで味わう。	・ 記念写真を撮ることで完成した気持ちを高めさせる。 ・ 感想を発表し合わせる。 ・ 片づけを協力して行わせる。 (評価5) お互いの作品を認め合い、感想をもつことができたか。 <鑑>	